

光学医療センター（内視鏡部）

1. スタッフ（平成27年4月1日現在 院内勤務者のみ）

センター長（教授） 山本 博徳
医員

消化器センター（内科部門）

（教 授） 磯田 憲夫（兼務） 長嶺 伸彦（兼務）
武藤 弘行（兼務）
（准 教 授） 玉田 喜一（兼務） 大澤 博之（兼務）
（講 師） 砂田圭二郎 畑中 恒（兼務）
森本 直樹（兼務） 矢野 智則（兼務）
佐藤 博之（兼務） 坂本 博次（兼務）
林 芳和（兼務）
（病院講師） 三枝 充代（兼務） 牛尾 純（兼務）
竹澤 敬人（兼務）
（助 教） 三浦 義正（兼務） 井野 裕治（兼務）
（病院助教） 沼尾 規且（兼務） 村山 梢（兼務）
東條 浩子（兼務）

シニアレジデント 7名

非常勤講師 田野 茂夫

消化器センター（外科部門）

（准 教 授） 細谷 好則（兼務）
（学内准教授） 宮倉 安幸（兼務）
（学内講師） 鯉沼 広治
（助 教） 齋藤 心（兼務）
（病院講師） 倉科憲太郎（兼務）

呼吸器センター（内科部門）

（教 授） 杉山幸比古（兼務）
（准 教 授） 坂東 政司（兼務）
（講 師） 山沢 英明（兼務） 間藤 尚子（兼務）
（助 教） 中屋 孝清（兼務）
（病院助教） 中澤 晶子（兼務）

呼吸器センター（外科部門）

（講 師） 山本 真一 手塚 憲志（兼務）

2. 光学医療センターの特徴

消化器に関して、診断および治療内視鏡が多大な貢献をしている。診療は、消化器センター内科学部門、外科部門、および富士フィルムメディカル国際光学医療学講座の医師が主に従事している。他に呼吸器センター内科および外科部門の医師も診療に従事している。予約の窓口はひとつであり、JUMP端末のどこからも自由に予約を取れるオープンシステムである。

・施設認定

日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設
日本消化器病学会認定施設
日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度指導施設
日本カプセル内視鏡学会専門医制度指導施設

・専門医

日本消化器内視鏡学会指導医	山本 博徳	他15名
日本消化器内視鏡学会専門医	山本 博徳	他26名
日本消化器病学会指導医	山本 博徳	他8名
日本消化器病学会専門医	山本 博徳	他31名
日本肝臓学会指導医	磯田 憲夫	他2名
日本肝臓学会専門医	磯田 憲夫	他13名
日本超音波医学会指導医	玉田 喜一	他4名
日本超音波医学会専門医	玉田 喜一	他4名
日本呼吸器学会指導医	杉山幸比古	他2名
日本呼吸器学会専門医	杉山幸比古	他4名
日本呼吸器内視鏡学会指導医	杉山幸比古	他2名
日本呼吸器内視鏡学会専門医	杉山幸比古	他4名
日本呼吸器内視鏡学会指導医	山本 真一	
日本呼吸器内視鏡学会専門医	山本 真一	他1名
日本内科学会指導医	山本 博徳	他17名
日本内科学会総合内科専門医	畑中 恒	他5名
日本内科学会認定内科医	山本 博徳	他36名
日本外科学会指導医	細谷 好則	他3名
日本外科学会専門医	細谷 好則	他5名
日本消化器外科学会指導医	細谷 好則	他3名
日本消化器外科学会専門医	細谷 好則	他5名
日本食道学会専門医	細谷 好則	他1名
日本大腸肛門病学会指導医	宮倉 安幸	
日本大腸肛門病学会専門医	宮倉 安幸	他1名
日本肝胆膵外科学会高度技能指導医	俵藤 正信	
日本カプセル内視鏡学会指導医	山本 博徳	他3名
American Society for Gastrointestinal Endoscopy, Active member	山本 博徳	他2名

3. 実績・クリニカルインディケーター

1) 検査件数

消化管部門では、上部消化管内視鏡検査7,581件、大腸内視鏡検査4,316件、小腸内視鏡検査323件、超音波内視鏡674件（うち上部消化管318、静脈瘤30、胆膵316）、ERCP 513件、カプセル内視鏡77件が行われた。呼吸器部門では、気管支鏡検査を786件行った。

2) 治療件数

上部内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）223件、大腸ポリリーポリペクトミー・EMR 767件（内科）、下部ESD 174件（内科）、小腸内視鏡下の処置、治療128件、内視鏡的食道静脈瘤結紮療法（EVL）／硬化療法 52件、ERCP下治療586例（重複あり）行った。

3) クリニカルインディケーター

(1) 治療成績

- ・上部消化管ESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）
 - 胃 一括切除率 98.9%（180/182病変）
 - （断端陰性完全一括切除率 91.8% 167/182）
 - 食道 一括切除率 100%（35/35病変）
 - （断端陰性完全一括切除率 88.6% 31/35）
 - 十二指腸 一括切除率 100%（6/6病変）
 - （断端陰性完全一括切除率 83.3% 5/6）
- ・下部消化管ESD
 - 一括切除率 97.7%（170/174病変）
 - （腫瘍サイズ平均、長径34.4mm）（カルチノイドおよびESD適応外病変は除く）
- ・ERCP下の処置および治療

経鼻胆道ドレナージ	64件
経乳頭的胆道ステント留置術	226件
乳頭拡張術	56件
乳頭切開術	99件
結石除去術	111件
膵胆管内超音波検査	30件
総胆管結石 完全截石率	83.3%（85/102）

※完全截石とは、一回の入院中に截石が完了した患者。

- ・EUS下の処置および治療

EUS下穿刺吸引術	96件
EUS下ドレナージ	11件
- ・ダブルバルーン内視鏡下逆行性膵胆管造影（DBERCP）

	81件
--	-----
- ・肝癌ラジオ波治療

（腹腔鏡的ラジオ波焼灼療法）	（69件）
（経皮的ラジオ波焼灼療法）	（6件）
（消化器外科との合同処置）	（2件）
- ・肝細胞癌に対する腹腔鏡的治療（ラジオ波、マイクロ波含む）

68症例、全例治療完遂、入院期間の変更を要す合併症なし
- ・食道静脈瘤治療（EVL）

47症例、全例治療完遂、入院期間の変更を要す合併症なし

(2) 偶発症

上部消化管ESD

出血率 3.1%（7/223）
 （内訳：食道0/35、胃7/182、十二指腸0/6）
 穿孔率 1.8%（4/223）
 （内訳：食道1/35、胃3/182、十二指腸0/6）

下部消化管ESD

後出血率 0.6%（1/174人）
 穿孔率 4.0%（7/174人）

ERCP後膵炎発生率 3.5%（18/513）うち重症1件（0.2%）

グループ毎に消化器センター内科・外科合同カンファレンスが行われている。他にセンター全体の内科・外科・病理カンファレンスも行っている。

内科・外科下部消化管カンファ（毎週木曜日）

内科・外科胆膵カンファ（毎月一回月曜日）

内科・外科肝カンファ（毎月一回月曜日）

センター全体カンファ（3ヶ月一回水曜日）

他職種と合同のカンファ

ESD術前カンファ（毎週月・火・水）

ESD前に医師、看護師で集まり、リスクの評価、戦略の確認など行っている。

内視鏡連絡会議

毎月一度（第3水曜日）各検査グループからなる内視鏡診療代表医師と、内視鏡看護師および事務職により構成される内視鏡定例会により、内視鏡室の安全かつ効率的運営を行うための会議が定期的に行われている。

4. 事業計画・来年度の目標等

- 1) 内視鏡研修・教育におけるソフトとハードを充実する。
 消化器内科ジュニアレジデント教育のためのマニュアルを作成し、上部内視鏡トレーニングモデル機を増やした。また、実際に上部内視鏡検査を経験できるような研修プログラムを策定した。後期研修は短期から長期まで柔軟に対応し、長期では消化器病専門医取得を目標とした研修を行う。担当科以外の診療科からの研修受け入れも一部行っている。
- 2) 内視鏡修理費削減を目指して、内視鏡検査に従事する医師を対象に、内視鏡取り扱い講習会を行っている。ここ数年1年間あたりの修理費は明らかな低下傾向を示しており、今後も継続を予定している。
- 3) 機器更新の長期的予定を立てる。古い内視鏡を整理し、必要な内視鏡・光源を長期的な視野で考え、無駄のない要望提出を行っていく。CO₂配管については申請中である。
- 4) 新棟南館の新設に伴い、緊急内視鏡用のスペースを申請中である。またリスクの高い内視鏡治療においては手術室で行えるよう調整中である。
- 5) 内視鏡専属の技師の配属について、病院側に申請中である。